

RCJ中部ブロックイベント2021 オンライン
実施報告書



RCJ中部ブロック2021 実行委員会

目次

1. 大会概要
2. 参加者リスト
3. 当日のタイムスケジュール
4. 会計報告
5. プログラム実施報告、評価反省
 - 5-1アイスブレイク
 - 5-2交流
 - 5-3活動報告
6. 評価反省(プログラム以外)
 - 6-1実行委員会
 - 6-2目的目標について
 - 6-3全体スケジュール
 - 6-4参加者との連絡
 - 6-5タイムスケジュール計画と結果
 - 6-6県代表・ブロック代表との連携
 - 6-7会計
 - 6-8広報
7. 参加者配布物
8. 事後アンケート結果
9. 実行委員の評価反省、感想

1. 大会概要

開催主旨: 1.RCJ中部ブロック内での交流を通して、ブロックとしての連帯感を高め活動の活性化を図る。

2.交流会を通して、他県連の活動やボーイスカウトへの想い、コロナ禍での活動について他県連の人と自由に話し合うことで、自身の活動やボーイスカウトへの想いを見つめ直し、各県連の活動の活性化や自身のモチベーション向上に繋げる。

名 称:RCJ中部ブロックイベント2021オンライン

主 催:RCJ中部ブロックイベント2021実行委員会

日 時:2021年8月28日(土) 20時~22時(22時~23時は任意の交流会)

会 場:ZOOM

参 加 費:700円

申込方法:Googleフォームを用いた。

2. 参加者リスト

実行委員11名

参加者63名

<実行委員会>

No	氏名	所属県連盟	所属地区	所属団
1	殿岡彩夏	富山県連盟	新川地区	滑川第1団
2	垣内皐良	石川県連盟	なし	野々市第1団
3	奈倉千晴	石川県連盟	なし	金沢第2団
4	赤池祥真	岐阜県連盟	東部地区	多治見第1団
5	太田和輝	岐阜県連盟	南部地区	岐阜第1団
6	奥村 理央	岐阜県連盟	岐阜南部地区	岐阜第25団
7	中嶋みと葉	静岡県連盟	浜松地区	浜松第12団
8	柴山美光	愛知連盟	名古屋西部地区	名古屋第109団
9	土屋誠悟	愛知連盟	名古屋西部地区	名古屋第121団
10	原健	愛知連盟	名古屋千種地区	名古屋第91団
11	小池さくら	愛知連盟	尾張東地区	日進第2団

<参加者>

No	氏名	所属県連盟	所属地区	所属団
1	大杉雪乃	新潟連盟	新潟地区	新潟第19団
2	鍋本知江	富山県連盟	砺波地区	小矢部第3団
3	岩川栞	富山県連盟	砺波地区	砺波第1団
4	花当祐郁	富山県連盟	砺波地区	南砺第3団
5	小川卓斗	富山県連盟	富山地区	富山第17団
6	遠渡佑輝	富山県連盟	新川地区	滑川第1団
7	大野優介	石川県連盟	金沢地区	金沢第11団
8	本野夏希	石川県連盟	なし	川北第1団
9	中口陽介	石川県連盟	なし	加賀第3団
10	寺師あずさ	石川県連盟	金沢地区	津幡第1団
11	山博紀	福井連盟	なし	福井第2団
12	富田尚人	福井連盟	なし	福井第7団
13	大畑颯人	福井連盟	なし	福井第7団
14	山浦孝介	長野県連盟	東信地区	立科第1団
15	愛敬智	岐阜県連盟	南部地区	岐阜第1団
16	太田裕規	岐阜県連盟	南部地区	岐阜第1団
17	不破拓也	岐阜県連盟	南部地区	岐阜第1団
18	酒井美於	岐阜県連盟	南部地区	岐阜第16団
19	古澤創	岐阜県連盟	岐阜南部地区	岐阜第25団
20	袴田 真由	静岡県連盟	浜松地区	浜松第12団
21	山田哲也	静岡県連盟	浜松地区	浜松第14団
22	山田夕理	静岡県連盟	沼駿地区	沼津第19団
23	大庭未来	愛知連盟	名古屋巽地区	名古屋第12団
24	佐野佑樹	愛知連盟	名古屋巽地区	名古屋第12団
25	松村康生	愛知連盟	名古屋巽地区	名古屋第58団
26	川越慈音	愛知連盟	名古屋巽地区	名古屋第125団
27	上原早貴	愛知連盟	名古屋西部地区	名古屋第19団
28	土方桃花	愛知連盟	名古屋千種地区	名古屋第75団
29	山下大賀	愛知連盟	名古屋千種地区	名古屋第87団
30	加納正和	愛知連盟	名古屋千種地区	名古屋第87団
31	原瑛	愛知連盟	名古屋千種地区	名古屋第91団
32	福井亜弥	愛知連盟	名古屋北斗地区	名古屋第101団

33	西野ちなせ	愛知連盟	名古屋北斗地区	名古屋第101団
34	滝藤美月	愛知連盟	尾張西地区	一宮第5団
35	森詩円	愛知連盟	尾張西地区	一宮第6団
36	瀧裕介	愛知連盟	尾張西地区	一宮第9団
37	野々垣祐汰	愛知連盟	尾張西地区	一宮第10団
38	伊藤千紘	愛知連盟	尾張西地区	一宮第10団
39	大島将義	愛知連盟	尾張西地区	一宮第13団
40	鈴木啓太	愛知連盟	尾張西地区	稲沢第1団
41	佐藤晨陽	愛知連盟	尾張西地区	稲沢第4団
42	佐久間 希未	愛知連盟	尾張西地区	稲沢第4団
43	宮田光一	愛知連盟	尾張東地区	北名古屋第1団
44	玉井友梨	愛知連盟	尾張東地区	北名古屋第2団
45	中村稔	愛知連盟	尾張東地区	江南第1団
46	佐藤 優真	愛知連盟	尾張東地区	春日井第2団
47	吉川満	愛知連盟	尾張東地区	春日井第2団
48	柴田雅弥	愛知連盟	尾張東地区	春日井第4団
49	小境健史	愛知連盟	尾張東地区	春日井第4団
50	中神大輔	愛知連盟	尾張東地区	春日井第5団
51	柏本彩百合	愛知連盟	尾張東地区	瀬戸第1団
52	小川優輝	愛知連盟	尾張東地区	瀬戸第6団
53	中根晃太	愛知連盟	尾張東地区	瀬戸第6団
54	気賀典子	愛知連盟	尾張東地区	小牧第2団
55	加藤颯	愛知連盟	知多西南地区	常滑第8団
56	宮崎 陽香	愛知連盟	豊田地区	みよし第2団
57	竹尾俊将	愛知連盟	穂の国地区	豊川第4団
58	松崎久弥	愛知連盟	三河葵地区	岡崎第8団
59	山本優真	愛知連盟	三河葵地区	岡崎第11団
60	犬塚偉大	愛知連盟	三河葵地区	西尾第2団
61	高原克典	愛知連盟	三河葵地区	西尾第5団
62	瀬古琉成	三重連盟	なし	桑名第3団
63	伊藤理香子	三重連盟	なし	桑名第3団

3.当日のタイムスケジュール

時間	内容	
19:45	開場	
20:00	開会セレモニー	
20:10	アイスブレイク	
20:30	各県連盟活動紹介	県代表が発表
21:15	交流会①	テーマ別に交流
21:35	交流会②	
21:55	閉会セレモニー	
22:05	自由交流	任意参加
23:00	閉場	

4.会計報告

RCJ中部ブロックイベント2021オンライン 予算

■収入

大区分	中区分	小区分	数量	単価	金額	備考
参加費	ローバースカウト	大会参加費	74	¥700	¥51,800	
合 計					¥51,800	

■支出

大区分	中区分	小区分	数量	単価	金額	備考
記念品		オリジナルワッペン	1	¥35,200	¥35,200	
		郵送料金	73	¥84	¥6,132	
					¥0	
		Web会議ツール使用料	0	¥0	¥0	
					¥0	
予備費用		対面準備費			¥10,468	詳細は下記
合 計					¥51,800	

RCJ中部ブロックイベント2021 決算

■収入

大区分	中区分	小区分	数量	単価	金額	備考
参加費	ローバースカウト	大会参加費	74	¥700	¥51,800	
補助収入	愛知連盟	補助	1	¥31,768	¥31,768	
合 計					¥83,568	

■支出

大区分	中区分	小区分	数量	単価	金額	備考
記念品		オリジナルワッペン	1	¥35,200	¥35,200	
		郵送料金	73	¥84	¥6,132	
		Web会議ツール使用料	0	¥0	¥0	
下見		6月23日交通費	1	¥4,322	¥4,322	
		7月17日交通費	1	¥34,302	¥34,302	
参加費振込		対面開催振込用紙切手代	43	¥84	¥3,612	
合 計					¥83,568	

5.プログラム実施報告、評価反省

5-1.アイスブレイク

- 評価

特に大きなトラブルもなくアイスブレイクを実施することができた。

事後アンケートより、オンラインならではのアイスブレイクができた、難しいながらも楽しむことができるものだったなどアイスブレイクに対してプラスに感じているスカウトが多かった。

- 反省

今後考えるべき点として主に3点挙げられる。実行委員間での情報共有、アイスブレイクのタイミングと自己紹介である。

実行委員間での情報共有に関しては、説明と実際の動きが異なっていたとアンケートにあり、リハーサルの中で実際にやってみることで改善されると思われる。

アイスブレイクのタイミングとしてアイスブレイクによって緊張が解け、喉も開いたはずだが県連紹介を挟んでしまったためアイスブレイクの効果が薄れてしまったかもしれない。今回のアイスブレイクには自己紹介がなかったため、アイスブレイクが消化不良として残っている参加者が見られた。

5-2.交流会

交流会では、事前アンケートで個人が話したいテーマを2つ選び、テーマごとのブレイクアウトルームを設置し各テーマ約20分交流した。

- 評価

・事前にグループ分けが済んでおり、テーマが掲げられていたことによって、スムーズに交流プログラムを始めることができたこと。

・参加している方々が笑顔で楽しそうに会話していて、個々のつながりを作れる場になっていたこと。

・それぞれの県の活動について情報を共有できる場になっていたこと。

- 反省

・オンライン開催になり元々用意していた交流会の内容をそのまま使ってしまったが、テーマ内容をもう少し詳しく提示することで参加者のエピソードも引き出せたかもしれない。

・アイスブレイク時の実行委員の動きが完全には共有できていなかった。トラブル対応も含め実行委員の動きマニュアルを作れたらわかりやすい。

・時間が短く、考えていたほどの交流ができなかった。じっくり交流ができる時間と人数を検討する必要がある。

5-3.各県連盟活動報告

各県連盟活動紹介では今年度のRCJ中部ブロック9県連盟の県連盟代表に自県のローバースカウトの活動状況やコミュニティの活動報告をスライドを用いて発表してもらった。

- 評価

ブロックイベント後のアンケートを参照すると、各県連の活動内容は理解できた、まあ理解できたと考える人が多く存在する。また、ブロックイベントが終了した後の自由参加の交流会では県連紹介内の内容について盛り上がっているグループがあり、活動を知ることを楽しめた人がいることはよかった点である。

- 反省

ブロックイベント後のアンケートの県連活動紹介の満足度が低い内容として、活動紹介が長いこと、県代表が把握していないこと、質問の時間が短いこと、があった。確かに、県連によってプレゼンテーションの時間が異なり、早く終わってしまう県連もあれば、長く話している県連もあった。県代表が最初から参加できない県もあり、難しい点であったと思うが、話している時間がおおよそ一定時間であったのならよかったのかもしれない。質問の時間が短いことについては県代表が3分より長く話していたこともあり、時間管理が難しかったことが原因である。県代表への質問ができるブレイクアウトルームを自由交流のときに作ってもよかったのかもしれない。

6.評価反省(プログラム以外)

6-1.実行委員会

RCJ中部ブロックイベントオンラインの実行委員会は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催が困難となった対面形式のブロックイベントの実行委員会からスライドし実施した。ブロックイベントオンラインの実行委員会は第7回・8回の2度開催した。

実行委員会はすべてオンライン会議ツールzoomを用いて行った。会議資料等はGoogle Driveを用いて保管をした。

進行は実行委員長が務め、議題を事前に提示しておいたことで長くとも2時間ほどの実行委員会で共有・協議・承認の流れをとることができた。実行委員会内で次回の実行委員会の開催日を決めたため各自が次の実行委員会までに何をすべきか考え、行動することができた。

オンラインに様式が変更してからは10日歯科猶予がなく、2度しか実行委員会を開催できなかった。そのためプログラム以外の仕事はできる人が手分けをして行ったプログラムについては対面開催時で行うはずだったものをオンライン用にアレンジをして対応をした。実行委員会の他に前日にリハーサルを実施し、当日の一連の流れを全員で確認をした。

6-2. 目的目標について

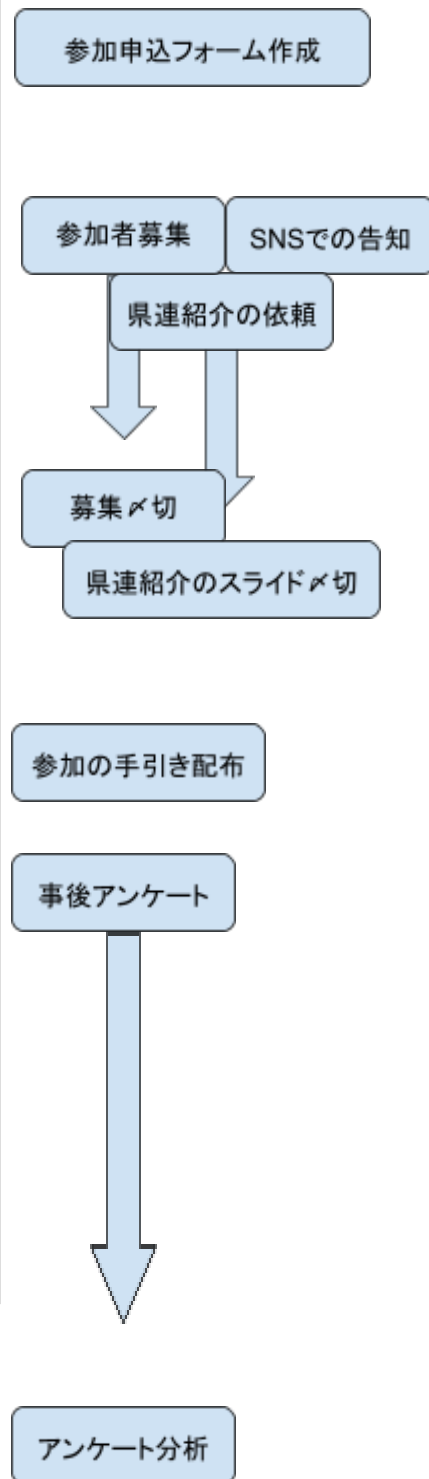
RCJ中部ブロック内での交流を通して、ブロックとしての連帯感を高め活動の活性化を図る。また、他県連の活動やボーイスカウトへの想い、コロナ禍での活動などについて他県連の人と自由に話し合うことで、自身の活動やボーイスカウトへの想いを見つめ直し、各県連の活動の活性化や自身のモチベーション向上に繋げることを目標に開催した。中部ブロック大会2021においては、オンラインでの各県連活動紹介や交流会を通して中部ブロック内での交流が活発に行われた。3分間で各県連盟がどのような活動をしているのかを紹介しあった各県連活動紹介や興味のあるボーイスカウトに関するテーマについて他県スカウトと話し合う交流会において、ローバリングやコロナ禍における活動など他県スカウトの活動について知る良い機会になったという意見があった。一方で、交流会が8人で15分間で行ったため、時間が足りなかった、スカウト同士の交流があまりできなかったなどの意見もあった。交流会の時間を検討したり、参加者同士の交流を促す工夫をしたりする必要があった。コロナ禍の活動は手探り状態であるが、多くのスカウトが他県スカウトの活動を今後の活動に生かしたいと前向きな姿勢であった。中部ブロック大会2021をブロック内で連携やこれからのスカウト活動の活性化に繋げていきたい。

6-3. 全体スケジュール

イベント内容をプログラムとして流用したため形にはなったが、イベント内容をオンライン用に練り直す時間が少なく、まだまだ改善の余地が見られた。コロナ禍がいつ収束するか分からないため、今回のように直前でオンライン開催に変更することは今後も起こり得るだろう。開催方式の変更は遅くとも2週間前にはした方がよい。

日にち	会議等	内容
8/17	実行委員会	オンライン開催に変更 実行委員会、県代表の承認 予算の変更

8/18		各県連盟展開
8/19		スカウト展開
8/20	プログラム班会議	準備
8/21		・計画書作成
8/22		・参加の手引き作成 ・背景画像作成
8/23	実行委員会	計画書承認 参加人数確定 役割分担
8/24		準備
8/25		・司会台本作成
8/26		・参加者の班分け
8/27	リハーサル	当日の流れの確認
8/28	ブロックイベント	
8/29		
8/30		個人報告書の作成
8/31		
9/1	実行委員会	評価反省 報告書作成 集金・返金対応について
9/15	実行委員会	報告書進捗報告
9/30	実行委員会	報告書進捗報告 集金・返金・記念品について



6-4.参加者との連絡

対面開催からオンライン開催に移る際の連絡は本ブロックイベントのGoogleアカウントを通じメールにて行った。参加の手引きについても開催2日前の展開となったが不備なくできていた。

参加者からももう少し早めの展開が望ましいとの意見もあったためスムーズに実行委員会で確認を取れる体制を整えていくべきだった。

遅刻・早退の連絡においても本ブロックイベントのGoogleアカウントのメールにて受付た。そのほかに直接実行委員へ連絡する手法もとったが、参加者からの連絡は実行委員会のLINEグループにも共有され、実行委員全員が把握できるようにした。

6-5.タイムスケジュール計画と結果

タイムスケジュールの計画と結果は下記の通りである。式全体は10分ほど延長する結果となった。これは、交流会1回目のブレイクアウトルームの振り分けミスが発生したとき、実行委員がすでに別々のブレイクアウトルームに移動してしまったために意思決定が遅れてしまったこと、それぞれがそれぞれの判断で動いてしまったために参加者への指示が統一されていなかったことなどが原因で対応が遅れたことにある。今回の問題は行き当たりばったりなトラブル対応しかできなかったことにある。対策として、考えられるトラブルをあらかじめ洗い出し、対応マニュアルを作成しておくことが必要である。

また、県連紹介は概ね時間通り実施することができたが、質疑応答の時間を十分に確保することができなかった。県代表には3分程度の発表を依頼していたが、中には5分ほど発表する方もおり、スケジュール通りに進行するために質疑応答の時間を削る結果となった。このことから、時間の融通を効かせるためにも休憩の時間を設定することが必要である。

時間	計画	結果
19:45	受付開始	受付開始
20:00	開会セレモニー	開会セレモニー、アイスブレイク説明
20:05		アイスブレイク開始
20:10	アイスブレイク説明	
20:15	アイスブレイク開始	
20:20		アイスブレイク終了、結果発表
20:25	アイスブレイク終了、結果発表	県連紹介開始
20:30	県連紹介開始	
21:15	県連紹介終了、交流会開始	県連紹介終了、交流会1回目開始
21:25		トラブル対応、交流会1回目再開
21:35	交流会1回目終了、交流会2回目開始	
21:40		交流会1回目終了、交流会2回目開始
21:50	交流会2回目終了、RCJ X宣伝	
21:55	閉会式	交流会2回目終了、RCJ X宣伝
22:00	記念撮影、自由交流会	閉会式、記念撮影

22:10		自由交流会
23:00	閉場	閉場

6-6.県代表・ブロック代表との連携

- 各県連盟活動紹介

県代表へは各県連盟の活動紹介のスライド作成と発表の依頼をした。スライドに関してはブロック代表に集約してもらいリハーサルまでに用意することができた。

また、当日各県5分ほどで各県連盟の活動紹介・報告をしてもらった。コロナ禍で各県がどのような活動をしているのか参加者に知ってもらう機会になり県代表としても自県の活動を伝える良い機会になった。
- 本イベントの周知

各県連盟のスカウトへの周知についても県代表と連携した。実行委員長と副実行委員長が2度ブロック会議に参席し、ブロックイベントの魅力について伝える機会とした。各県SNSや口コミで多くのスカウトへ呼びかけをしていた。そのため各県連盟から参加者を出し、64名もの参加者を集めることができた。

6-7.会計

- 評価

参加費に関して、アンケート等に不満の記載もなく妥当な設定をすることが出来た。

参加費の納入について、今回は実施日までの時間の無さから、実行委員を經由した振込と、指定口座への振込の両方を適用した。アンケートに参加費納入の経路にスカウトを挟むことに不信感を抱くスカウトが一定数いた。最終的にイベント実施後の納入となったので、一括で指定口座への振込を選択するべきだったと感じた。

6-8.広報

Instagramの運用 (https://www.instagram.com/chubu_be_2021/)

広報として、「中部ブロックイベントの価値を理解したスカウトの申込数を増やすこと」を目的とした。Instagramは広く認知度を測ることはできないが特定のフォロワーに継続的に情報を伝えられるという特徴がある。そのため、開催案内とともに展開した広報フライヤーにInstagramアカウントのQRコードを貼り、アカウントを多くのスカウトに周知した後、大会価値を理解してもらうための内容の投稿をコンスタントにアップした。リマインドや新着ニュースなどはストーリー機能を利用した。

- 評価

アンケートから、インスタグラムをフォローしてくれたスカウトには参加価値を理解してもらえたことがわかった。アンケートでは「公式Instagramは参加の要因になったか」という質問に対し、全体の約56%が「参加の要因になった」と回答した。「投稿やストーリーの頻度が多く目につきやすかった」「投稿が見易かった」などの理由から参加を決めた参加者もいたため、目的達成と判断した。
- 反省

参加者価値を伝えるための投稿を作成したが、伝えるべき価値を全て投稿しきることができなかった。一つ一つに投稿がアンケートからも「投稿期間が空いてもったいなかった」とのコメントを貰ったため、運用前に投稿スケジュールを作成し

てから取り組むべきだったと考える。

- ブレイクアウトルーム
 - 原因と改善案
 - 機材の問題、グレードの問題

7.参加者配布物

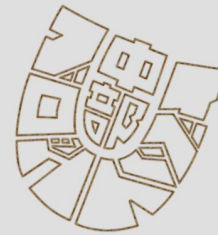
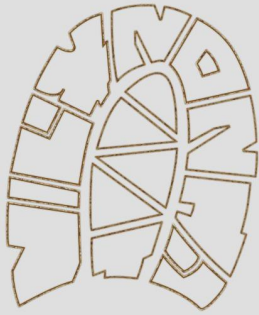
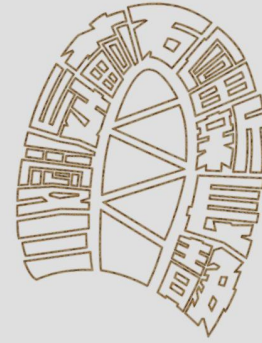
▼本イベントロゴのワッペン



▼ZOOM背景



CHUBU BLOCK EVENT 2021 ONLINE 2021.08.28



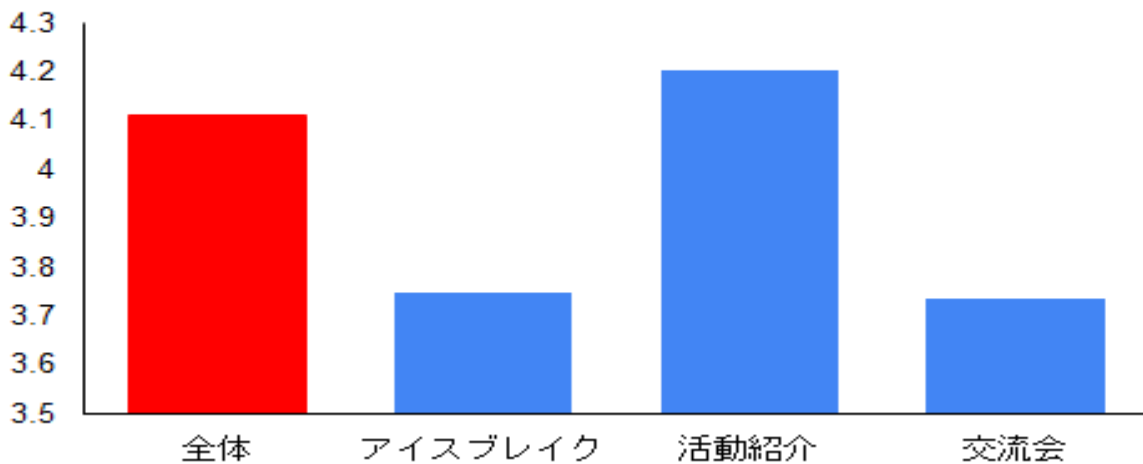
8.事後アンケート結果

参加者に回答してもらった事後アンケートについて分析した結果を以下に記載する。

○本イベントについて

本イベントの満足度

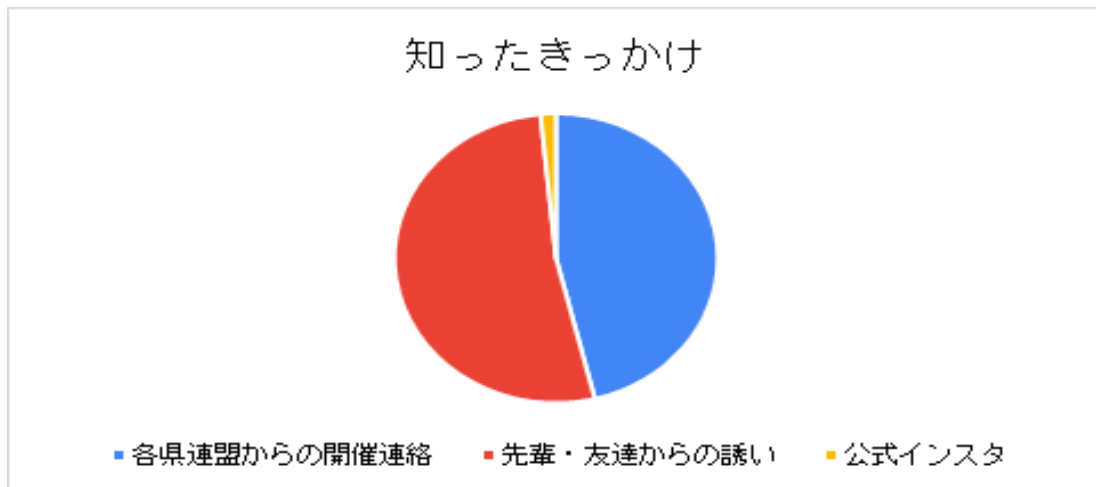
満足度



全体では平均の満足度が4.1と非常に高かった。中でも活動紹介の満足度は4.2以上であり、比較的満足度の低い交流会でも3.7以上となっており、本イベントは参加者が十分に満足できる内容であったと言える。

参加者からは「気軽に参加できた」「各県連の実情が知れてよかった」「自由交流の時間があるのがよかった」などの声が寄せられた。一方で「時間が短かった」「活動紹介後に討論がしたかった」「もっと交流したかった」という指摘も多数あった。本イベントは活動紹介、交流会の2本立てだったが、時間を伸ばさず、もしくはどちらか一つに絞り、より内容を掘り下げのような活動が出来たかもしれない。

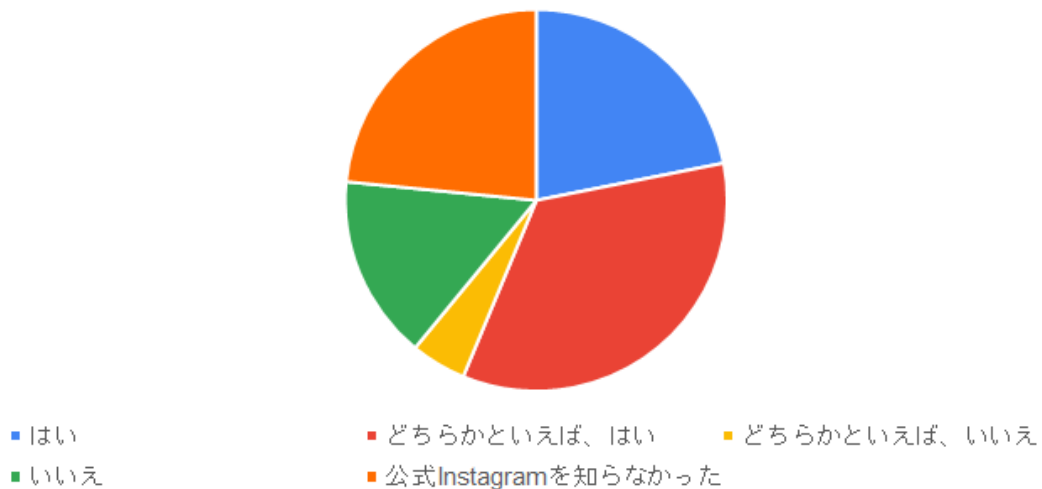
○広報について
本イベントを知ったきっかけ



本イベントを知ったきっかけは「先輩・友達からの誘い」が最も多く、次に「各県連盟からの開催連絡」が多かった。「公式Instagram」によって知ったと答えた人は1人のみであった。

公式instagramは参加の要因になったか

公式instagramは参加の要因になったか



「公式Instagramは参加の要因になったか」という項目では、全体の約56%が「参加の要因になった」と回答した。「参加の要因になった」と答えた人達からは「参加申し込みの説明が丁寧で分かりやすかった」「クオリティが高かった」「おすすめに出てきてくれた」などのコメントが寄せられた。

北信越



- はい
- どちらかといえば、はい
- どちらかといえば、いいえ
- いいえ
- 公式Instagramを知らなかった

一方で、「公式Instagramを知らなかった」と答えた人は全体の23%であった。北信越地方の参加者は約37%が「公式Instagramを知らなかった」と答え、約62%が「公式Instagramは参加の要因になっていない」と答えた。「公式Instagramは参加の要因になっていない」と答えた人達からは「twitterやFacebookはやっているがInstagramはやっていない、もしくはあまり見ない」といったコメントが寄せられた。

以上を総合すると、公式Instagramは参加者の約56%に参加を促すことができているため、十分効果的な広報ができたと言える。一方で北信越地方からの参加者にはあまり効果的に広報ができていないという側面もあった。今後は複数のSNSを活用することでより多くの人に効果的に広報できるのではないかと考える。

○今後のイベントについて

次回以降のブロックイベントについて、全体の70%が対面での活動を希望していた。一方で、今回のイベントはオンラインであったため気軽に参加できたという声

次回以降のブロックイベントでは全体の67%が野外活動がやりたいと答えた。具体的にはキャンプ、大型建造物、中部地方の豊かな自然を活かしたアクティビティなどが挙げられた。また全体の約30%が交流メインの活動がしたいと答えた。具体的にはブロックイベント後にもつながりが続くような交流、RS組織についての情報交換会などが挙げられた。

9.実行委員の評価反省、感想

【実行委員長 岐阜県連盟 岐阜第1団 赤池祥真】

対面でのイベント開催が現実的ではないと感じた段階で、素早くオンラインイベントに切り替えることができたのは非常に良かったと感じています。事業の縮小は想定の範囲内で事前の準備が行えていましたが、大幅な開催形式変更によりゼロベースに戻ってしまったことは残念でした。結果論ですが、当初からオンライン開催の検討も行えていたら、更に良いイベントになっていたのではないかと考えます。対面イベントのプログラムをオンライン様式に転用できるように、設定するのも効果的だったかもしれません。

イベント当日は、参加者の皆さんと混ざってイベントに参加しましたが、新たな出会いや懐かしい人との再開を喜ぶスカウトの顔が見れて、開催できてよかったと感じました。進行や各担当に関しては実行委員に一任していましたが、概ねスムーズに運営できていたと感じます。当初予定していた内容からは、離れたイベントとなってしまいましたが、非常事態の中で開催できたことは非常に良かったですし、評価できるのではないのでしょうか。

無事開催できたのも、オンラインイベントに参加していただいたスカウトの皆さんだけでなく、対面イベントに参加予定だった皆さん、忙しい中準備や運営に力を尽くしてくれた実行委員の皆さん、支えていただいた各県コミッショナーや関係者の皆様のおかげです。ありがとうございました。

【副実行委員長 愛知連盟 名古屋第109団 柴山美光】

静岡県に緊急事態宣言が出る日がわかった日に実行委員長とプログラム班のリーダーとで協議を交わし、素早くオンラインに移行する準備をした。この日に基盤を固めて置いたことにより、準備期間が短くとも各自が何をすれば良いのか明確にしておいたため大きな問題もなく本イベントを実施することができた。

開催当日までのスケジュールを早めに立てたことによりスムーズに準備をすることができた。

しかし、オンライン開催になったことにより、業務内容が変わってしまったため準備に取り掛かることが少ない実行委員もいたため、時間はないと言えどきちんと仕事をふるべきであったと思う。また、参加の手引きの作成と展開が開催ギリギリになってしまっていたため、1人で作成せず誰かと一緒に作成をすれば記載ミスもなかったのではと思う。

当日は会場管理・トラブル対応を担当した。各県連盟のローバースカウトの活動紹介を県代表に依頼をしていたが、県代表が発表時に間に合わない、イベント自体が少し早めに進むなど焦る部分もあった。県代表と活動紹介の担当の実行委員と連携を図り順番を入れ替えるなどしてスムーズに発表をしてもらうことができた。

班を振り分ける際に間違えてしまい、参加者と実行委員との間で情報が錯誤したため一時混乱状態となった。その際に速やかに対応をすることができず短い開催時間の中でロスを生み出してしまった。冷静になって対応しておけば時間のロスも減らせたと思う。また、このような状況が生まれることも予測しておくべきであったと反省している。

新型コロナウイルスの感染拡大により急遽開催方法が変更となり準備期間が短い中でオンラインイベントを作り上げることができるか不安であったが、実行委員全員がより連携を図れたため、無事にイベントを終えることができた。

また県代表の協力により素早く9県連盟のローバースカウト及び同年代指導者に周知することができた。オンラインということもあり参加のハードルが下がったため、各県連盟からスカウトが参加していた。年齢層も幅広く、充実した交流につながったのではないかと思います。

【実行委員 富山県連盟 滑川第2団 殿岡彩夏】

事前準備ではオンライン開催に決まってから実行委員全員で役割分担をして行動することができ良かったと思う。

しかし、事前準備(実行委員会)の時、積極的に発言することができず話し合いについていけなくなることが多々あったので、思いつくことや自分の考えをもっと発言して行こうと思った。

オンラインに切り替わってから、生活班として事前準備にあまり携わることができなかつたので、他の実行委員に任せるのではなく「自分がやります」と発言して積極的に事前準備に携わっていくべきであった。

急遽オンライン開催に切り替わり、いろいろ準備することが変わったが、それぞれ役割分担をして本番前までにしっかりと準備できて良かったと思う。自分自身はあまり事前準備に携わることができずほとんど他の実行委員の方がやっておられたので、もっと積極的に参加すべきだったと感じた。

班会議では話し合う内容をまとめず参加してしまい内容が詰まらないことが多くあったので、事前に会議で話し合う内容をまとめてわからないことや困っていることなどをしっかりとまとめて参加するべきだったと思う。

イベント当日は参加している方々が笑顔で楽しそうに会話していて、個々のつながりを作れる場になっていたこと、それぞれの県の活動について情報を共有できる場になっていたため満足している。

反省点としては県代表の活動紹介ばかりに気を取られていてあまり運営に貢献できなかったことや、受付をしていた時、名前を一人ひとり探すのに時間がかかったり、2人で同じ人をチェックしていたりと効率よく受付することができなかつたので、受付の確認する部分を県単位で区切ったりして効率よい受付をしていこうと思った。また、ZOOMの機能について知識不足な部分があり、他の実行委員の方にお任せしていることが多くあったので運営に貢献できなかったので、事前にZOOMの機能についてしっかりと知識をつけその時に応じてZOOMの昨日の使い分けができるようにしようと思った。(発表者の固定など)

交流会で指揮をとっていると、お話しされている方だけお話をして他の方々はお話を聞いてただの発表で終わってしまうことが多々あったので、もっとみんなが自由に発言できるような雰囲気作りや会話のまわしをしたり話を深掘して会話が弾むようにしていこうと思った。

たくさんの方々に集まっていたが、少しの時間であったが新しいつながりを作れる

ことができよかったと思う。本来であれば対面で行っていたが、オンラインならではの企画であったり、オンラインだからできたことが多くあると感じた。

最後のフリートークの時間では交流会では話せなかつた方とたくさん話をしたり情報を共有できたので良かったと思う。運営側では、受付で参加者確認がうまくできず開始前までに参加者全員の名前確認をすることできなかったため、2人で県単位に分けるといった役割分担をして確認すればよかったと感じた。

途中のトラブルで参加者の方々は落ち着いていたのに、個人的に焦ってしまい、参加者の方々への説明がうまくいかなかつたり、途中退出をしてしまうなどしてしまったので、まずは落ち着いて状況判断をして行動するべきだったと感じた。

*感想

初めてブロックイベントに参加してたくさんのローバースカウトの方々と話したり笑顔が見れたことが一番嬉しかった。また、イベントが終わった後の自由交流会にて新たなつながりを持たたというお話を聞き、参加された方々が新しいつながりを持たれたことが良かったと思う。運営側としては他の実行委員の方々に頼りっぱなしで積極的に参加できていたとは言えないので、今度実行委員になったときには今回の反省を活かしてもっと自分の意見を出

していこうと思った。今回初めてブロックイベントの実行委員になり、他県のローバーの方々と話し合いをして、自分が思いつかなかった考えや意見などを聞いたりして学ぶ機会が多くあった。未熟な自分を成長させられる場となりとても楽しく活動に参加することができた。実行委員の皆さんさまざまな場面で支えてくださりありがとうございました。

【実行委員 石川県連盟 野々市 第1団 垣内阜良】

オンライン開催に変更したことにより仕事が一気に無くなった。オンライン開催までに名簿の作成を行うはずであったが他の委員が作成してくれたため自分が作成することはなかった。時間がない中の準備ではあったが委員同士が情報交換をしっかり行って運営をしていくべきであった。

当日の担当は各県連盟活動紹介の司会進行であった。計画していた時間までに活動紹介を終わらせ流ることができた。またある程度、うまく進行できたと思う。県によって話している時間が異なり、話の内容が長いと飽きてきたような人がいた。それ故か質問、感想が出にくかったのではないかと考える。しかし、アンケートを参照すると質問できなかった人がいた。ブレイクアウトルームをつくって質問できる時間があってもよかったのかもしれない。

緊急事態宣言によりイベントを中止してしまうのではなく、オンライン開催に切り替えることで、これからイベントを継続して行っていくやすくなったのではないかと考える。対面であるため、参加を検討していた人も参加しやすくなったことはよいことであると考えます。

【実行委員 石川県連盟 金沢第2団 奈倉千晴】

貢献できなかったのが反省として挙げられる。対面のイベント企画を進めていく中で、急遽オンライン開催に変更になり戸惑いもあったが、イベントを再度練り直したり修正したりすることで、無事開催まで運べたので良かった。

当日は、イベント中に使用されるスライドの管理を行った。各県連のローバー活動紹介では、開始時間に間に合わない代表スカウトが急遽出るなどトラブルもあったが対応できたので良かった。また、各県連のローバー代表の話にスライドを進めるスピード調整が難しく、活動紹介中にスライドへの指示が多くみられた。次回以降のオンラインイベントではリハーサルに代表スカウトを交えて行うことや確認の上で本人に共有をお願いするなどの工夫が必要だと感じた。

緊急事態宣言を受けて10日という短い期間の中でオンラインイベントを計画し実行できるのかなど、運営側と参加者側どちらも不安を抱えた本イベントであったが、中止という判断をせず、オンラインで交流という形で開催出来たことが一番の成果だと思った。コロナ禍で思い通りに活動が出来ないスカウトが多い中で、オンラインでも活発な議論と交流ができることを示せた今回のイベントは良い見本にもなったのではないだろうか。

【実行委員 岐阜県連盟 岐阜第1団 太田和輝】

まず、10日という短い期間の中でオンラインイベントを計画、実施まで持っていくことができたのは評価すべき点である。少なくとも自分は大規模なオンラインイベントを運営したことはなく、ノウハウの少ない中でよく大きな問題もなく実施できたと思う。また9県連全てが集まり、活動報告をできたというのも非常に評価できる。アンケートの結果ではそれぞれの活動から得るものがあったという回答が多く、有意義なイベントに出来たのではないかと考える。

問題点があったとすれば、タイムスケジュールに余裕がなかったことである。初期案に比べればかなり余裕のあるタイムスケジュールになったが、それでも時間はカツカツでアンケートには「交流会等の時間が短い」「質疑応答の時間が短い」といった指摘があった。また、最大3時間という長丁場になるイベントなのに休憩がなかったのも問題だろう。休憩の時間があれば、多少時間が押したり巻いたりしても休憩で時間調整が行えただろう。より有意義なイベントにするためにはタイムスケジュールには多少の余裕が必要だったと考える。

参加者からは次回もオンラインなら参加したいという声があった。オンラインイベントに一定の需要があるのは確かだろう。本イベントが次回以降のオンラインイベントの参考になることを願う。

【実行委員 岐阜県連盟 岐阜第25団 奥村理央】

本イベント全体において、急遽決まったオンライン開催だったが、充実したものだった。また、トラブルが発生した際にも対処することができた。

交流プログラムについて評価すべき点は、事前にグループ分けが済んでおり、テーマが掲げられていたことによって、スムーズに交流プログラムを始めることができたことだ。反省すべき点は時間が短く、考えていたほどの交流ができなかった。もっとじっくり交流したい。これは対面の方が良かったかもしれない。オンライン開催が続く場合、会場確保等の手間がないため、全体の開始時刻を19時として開催時間に余裕を持たせるなどの工夫が考えられる。

各県活動紹介の評価すべき点はこれまでの対面での開催時と同様に、スライド発表がスムーズに行われたことだ。反省すべき点は事前の各県連への通知、当日の進行のいずれにおいても、タイムマネジメントが完全でなかった。その結果、県連ごとに発表の長さにはばらつきが生じてしまったことである。

【実行委員 静岡県連盟 浜松第12団 中嶋みと葉】

準備段階ではスライドの作成を担当した。開催形式の変更による参加者の不安感を少しでも抑えられるよう、また実行委員の迅速かつ丁寧なオンライン開催の準備を飾れるよう、できるかぎり見栄えの良いスライドを作成した。

アイスブレイクは全員が参加できる内容であったのは良かったと思う。グループ内で積極的に参加できる人とできていない人に差があったため、手元にありそうなもので話題を振るなど全体に気を配る必要があった。

各県連盟活動紹介は各県特色のある活動紹介で、非常に有意義であったと思う。時間管理が曖昧であった点と、質疑応答が十分に出来なかった点、進行に停滞が見られた点は反省点として挙げられる。

交流会は短期間で計画したプログラムとしてはベストを尽くせたと思う。トークテーマが決まっていたため、グループに分かれた後交流し始めまでがスムーズだった。

進行に関しては、アクシデント後の対応等十分に担当を務めきれなかった。

ブレイクアウトルームの移動ミスがあった際、実行委員が各自で判断を下し、参加者に指示をしまい、より混乱を招いてしまったことが一番の反省点だと思う。

またブレイクアウトルームに分かれた後、個人的な反省として全体のまわしが十分にできず参加者へ満足に交流を促せなかった。

イベントとしては、短い準備期間のなかでのベストを尽くせたと思う。

【実行委員 愛知県連盟 名古屋第121団 土屋誠悟】

対面開催のイベントからオンラインイベントに急遽変更になった際に滞りなく迅速に対応できた。しかし、自分の請け負った役職が、比較的仕事量が少なかったので仕事量の多い方の手助けをするべきであった。

当日は撮影担当であった。失敗することなくスクリーンショットを行えた。

実行委員や参加者を含め、楽しそうな表情を写真に収めることができた。反省点としてはスクリンショットは誰でも簡単にできるため、忙しい実行委員の方の仕事を分担するべきだった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、開催日から2,3週間前に、2ヶ月間準備してきた野営大会の交流会計画からオンライン交流会へと変更になったが、短い準備期間とは思えない質だった。交流会をオフラインで行えなかったことは非常に残念だが、オンライン交流会特有の利点もあったため、次回第3回中部ブロックイベントへの布石になったと思う。

【実行委員 愛知県連盟 名古屋第91団 原健】

オンライン開催変更前から頻りにプログラム班での班会議を行っていたためプログラム内容の変更もスムーズに切り替えることができた。

反省としては、オンライン開催になり元々用意していた交流会の内容をそのまま使ってしまったが、テーマ内容をもう少し詳しく提示することで参加者のエピソードも引き出せたかもしれない。

アイスブレイク時の実行委員の動きが完全には共有できていなかったため、トラブル対応も含め実行委員動きマニュアルを作れたらわかりやすいと思った。

当日はアイスブレイキングを担当した。しりとりでヒントを出し合いながら、動きながら行ったためアイスブレイクとして緊張を和らげることができた。反省点としてはしり通りの内容を発表してもらうことになっていたのもそのまま読み上げをお願いしてしまったが、35単語を読み上げるのはかなり変な空気になってしまった。臨機応変に一部を読み上げてもらうなどにすればよかった。

緊急事態宣言により開催方法が変更して実施まで短い期間でしたが自分なりに動くことができ実行委員全体と協力してブロックイベントを迎えることができた。

対面で行うことは出来なかったが、中止ではなくオンライン開催に変更したことはかなり良かったと思う。対面では参加できなかったスカウトもオンラインに変更したことにより参加することができ、より多くのスカウトが参加してくれた。

また、自由参加の交流会では50以上ものスカウトが話しており、県をまたいだ交流や年代を超えた交流もよく見られた。

ブロックイベントにはやはり中部ブロック全体での交流が求められており、今回のイベントではそれを達成できたのではないかと思う。

【実行委員 愛知県連盟 日進第2団 小池さくら】

私は本イベントでは広報を担当した。オンラインに切り替えたタイミングで投稿を作成できたこと。ストーリーには申込や準備などのリマインド効果のあるものを投稿したが、アンケートからはそれらの情報が役に立ったとのコメントが多く書かれていた。また「投稿やストーリーの頻度が多く目につきやすかった」「投稿が見易かった」などの理由から参加を決めた参加者もあり、Instagram運用の目的は達成できた。

反省点としては開催方法変更のお知らせは投稿したが、その他にも広報として発信すべきことがあったと感じる(オンライン開催における疑問点や、オンラインBEの価値など)。アンケートからも「投稿期間が空いてもったいなかった」とのコメントを貰ったため、運用前に投稿スケジュールを作成してから取り組むべきだったと考える。

開催方法の変更を検討する際、目的と状況から冷静に判断することができた。任された仕事を期限内に終わらせることができなかったことが多々あり、迷惑をかけてしまった。他のタスク等が重なっていたこともあるが、自分のキャパとスケジュールを正しく認識し仕事を請け負うべきだった。

全体集合写真

